

名詞修飾表現の用いられ方について —「修飾節＋主名詞。」という表現の用法—

高 橋 美奈子

(平成18年 8 月21日受理 最終原稿平成18年10月 6 日受理)

1. はじめに

本稿は、日本語の名詞修飾表現（修飾節と、修飾される名詞から成る表現を本稿ではこう呼ぶ）についての記述的研究の一端¹⁾として、名詞修飾表現が文章・談話中でどのように用いられるかについて記述・分析を行うものである。

名詞修飾表現は全体で名詞句相当となるが、その用いられ方は次のように整理できる²⁾。

1) 文の述語の格成分となる

(1) 北海道へ行ってきた友人が、お土産をくれた。

2) 文の述語名詞となる

(2) これは、友人にもらったお土産です。

3) 判定詞を伴い、文を形成する

(3) この本を読んで本当によかった、と深く感動する太郎だった。

4) 判定詞や接続助詞を伴い、接続節を形成する

(4) 景気が回復し新卒の求人も増えていると言われる昨今であるが、卒業直前になっても就職先が決まらない学生もいる。

(5) 地道な努力を重ねてきた彼だから、この成果が得られた³⁾。

5) 名詞修飾表現のみで文を形成する（「修飾節＋主名詞。」）

(6) 愛らしい格好で球場を和ませる各球団のマスコットキャラクター。今季、選手とともに敵地を訪れる機会が増えている。 (朝日新聞 '05.8/4)

(7) そんな店で、シャーリーの化けたルイーゼは、つい化けていることを忘れてケチャップを注文した。／露骨にイヤな顔をするウェイターと、いぶかしげに眉をひそめるお母さん。 (渡辺祥子『映画とたべもの』)

これらの中でも 3)・4)・5) は、修飾節を伴う名詞句の用いられ方として興味深い⁴⁾。本稿では 5) の「修飾節＋主名詞。」を対象に定め、文章・談話におけるその諸用法を記述するものである。

2. 「修飾節＋主名詞。」を扱っている先行研究

上で「修飾節＋主名詞。」を対象に定めると述べた。これは、修飾節と修飾を受ける名詞に

高 橋 美奈子

よって構成された名詞句である名詞修飾表現が、主語も述語も伴わず、これのみで文章・談話中で提示され、文相当になっているものである。

このような表現に関する先行研究について見ておきたい。

南(1993)は「述部を持たない文」である「独立語文」の分類を示している。南の「提示文」には2種類のものがある。一つは「題目文」で、「ある談話の、ある単位的部分の主題、要旨などを示すもの」(p.69)であり、もう一つは「表示文」で、「いろいろなものごとについての説明、指示、注意を名詞句の形で伝えるもの。また、各種の名称の表示」(p.70)である。具体的には、「題目文」の例としては(8)(9)、「表示文」の例としては(10)～(12)のようなものが挙げられている⁵⁾。

(8) 盗みが許された名月の供物 古名は宇毛。山に自生する自然薯ことやまいもに対し、里の田畑で栽培するので里芋、あるいは家つ芋と呼ばれる。(中略)中秋の名月に備えるのは里芋と団子。土地によっては、さつま芋。子供の頃は他家の縁に供えている芋を竿で盗み取ったもの。(…)

(9) しばしばウサギ小屋などと言われる住宅事情の改善と、環境問題の解決。経済大国といわれながら、まだまだ多くの問題をかかえている日本にとって、この2つは中でも緊急度の高いものといわなければなりません。

(10) 「入口」「こわれもの」「暖房中」「13m先右折」といった表示や指示

(11) 「『太安万侶』墓の銅墓誌」(発掘写真のキャプション)

(12) 「6月3日の大火碎流発生以後も成長を続けている雲仙普賢岳の溶岩ドーム」

(報道写真の説明)

坪本(1992)(1997)は、実況放送やシナリオのト書き、報道写真のキャプション等に現れる、「提示文」(1992)、あるいは「X P-N P連鎖⁶⁾」(1997)と呼ぶところの表現について分析している。具体例としては、次のようなものが挙げられている。

(13) [実況放送]〈この時、バンドの奏でる讃美歌「秋」起こる。そしてつづく〉折しも、高らかに起こりましたバンドの演奏。

(14) [シナリオト書き] バッグから小銭入れを出しながら、入ってゆく素子。

坪本(1997)はこのような表現について、X P (修飾節部分) がN P (名詞) に対して、N P の属性ではなく眼前の一時的事態を表し、X P-N P 全体は一つの事態を表しえる、といった特徴を指摘している。

メイナード(2004)は、談話言語学の立場から、名詞句の言い切りや体言止めの表現について考察している。その考察対象は本稿より広く、修飾節を伴う名詞のほか、〈NP〉で終わり、後続する述部を伴わないもの(例「引き続き心温まるお話を……。」)、〈XはNP〉や〈XがNP〉という構造のもの(例「最初のプロジェクトは、『合唱』がテーマ。」「そこで注文して待っていると、最初に運ばれてくるのがおいしいパン。」)、修飾節を伴わない名詞のみのもの、名詞が助詞を伴うものなども含まれるが、それらも併せて、多面的な考察を行っている。本稿の対象である「修飾節+主名詞。」という表現に限ると、メイナード(2004)は、雑誌解説文やノ

名詞修飾表現の用いられ方について

ンフィクションにおいて用いられるこのような表現の機能として、次のものを挙げている⁷⁾。

- ① 「トピック提示」…文章のトピックを提示する。冒頭文に多く見られる。後続の文がそのトピックを受けて展開していく。
- (15) 徹底的に自分をいたわる心。それが啄木の短歌を貫いている。
- ② 「焦点情報」…コンテキストが期待する新しい情報を提供する。名詞句で提示することによって、概念をまとめて、焦点情報を付託の対象として投げ出すことになり、それなりの効果がある。
- (16) もちろん、そのためにさまざまな問題もおこっている。ルールやマナーを無視した、人を傷つけたりする、無責任な書き込み。誰もが発言、発信できるという素晴らしさの陰には、誰もが発言、発信できるという恐ろしさがある。
- ③ 「リスト」…リストを提示する際に用いられる。
- (17) この出来事が物語っているのは何か。ひとつは、アメリカが世界だということ。そしてもうひとつは、アメリカは世界ではないということ。その二つのことをこの出来事は鋭く物語っているように思える。
- ④ 「付託的効果を狙った感嘆的な対象の提示」…名詞句を付託の対象として提示し、書き手の詠嘆の気持ちや感慨を表現する。
- (18) その時、一杯のジュースのために惜し気もなく驚くほどたっぷりと野菜を使う。その惜し気のない量と使われる野菜の新鮮さ。もしも私がこの町に住んでいたら、どんなにのびやかに、「オーガニックな暮らし」ができることだろう。
- (19) 大好きなT先生が黒板に三行書きで板書する。ゆっくりと朗読される声を聞きながら、ああ、やっぱりいいなと思う私。

このように、「修飾節+主名詞。」という表現の用い方のうち多くのものが先行研究に指摘されており、本稿も首肯する部分もあるが、差異もある。

3. 「修飾節+主名詞。」分析の観点

「修飾節+主名詞。」という表現は様々な媒体の文章・談話において用いられている。同じ内容を他の形で表すことが可能な場合もあるにも関わらず、なぜ「修飾節+主名詞。」という表現が用いられるのか。

この表現を用いることには、次のような利点がある。

- (20) ①名詞修飾表現に注目を集めやすい。
- ②表現が簡潔になる。
- ③修飾節の内容を先に示すことができる。

これらは、次のようなことである。(21) a・b・cを比較されたい(aが実例、bとcはaを操作したもの)。

- (21) a [「スピッツ」の活動の紹介記事] 今月末からいよいよロングツアーがスタートするスピッツ。大阪公演に続き、新たに決定した関西圏の4公演を大募集。(『ぴあ』)

高 橋 美奈子

b 今月末からいよいよロングツアーがスタートするスピッツ {が/は}、大阪公演に続き、新たに決定した関西圏の4公演を大募集。

c スピッツは今月末からいよいよロングツアーがスタートする。大阪公演に続き、新たに決定した関西圏の4公演を大募集。

(20)①に関しては、(21) a と b を比較されたい。主語も述語も伴わずに、名詞修飾表現のみを提示する文である a の1文目は、名詞修飾表現を格成分として後続の文に組み入れた b に比べ、名詞修飾表現に聞き手(読み手)の注目が集まる。

(20)②については、次のようなことがある。(21) a と b を比較すると、名詞句のみを提示している a の1文目に比べ、名詞修飾表現を格成分として組み入れた b は、当然ながら文が長くなる。(21) a と c を比較すると、名詞につく助詞の有無という僅かな差ではあるが、aの方が簡潔であると言える。また、助詞の有無以外の点でも、「修飾節+主名詞。」という表現の方が、同じ内容を、「主語-述語」という文よりも簡潔に表すことができる(後述)。

(20)③については、修飾節で述べられる内容を問題の名詞よりも先に示すことが、文章・談話の流れの上で意義を持つ場合がある(後述)。

結論を先に示すと、本稿では、さまざまな文章・談話に現れる「修飾節+主名詞。」という表現を分析した結果、この表現の文章・談話における用法を、次のように分類する。

(22) 話題の提示、前提の設定、事物の状態の説明、出来事の出来^{しゅったい}、補足的説明の挿入、事態の評価

次節で、これらの用法のそれぞれについて記述していく。

4. 「修飾節+主名詞。」の諸用法

4. 1 話題の提示

南(1993)では「題目文」、メイナード(2004)では「トピック提示」と呼ぶところの、名詞句の用いられ方についての記述があったが、本稿でも、「修飾節+主名詞。」という表現の用法の一つとして、文章・談話の中心話題となる事物を提示するものを認める。

これは、雑誌や新聞の記事、新製品や新刊書の紹介の文章、またテレビやラジオの報道などの、何らかの事物を取り上げそれについて読み手に説明することを目的とする文章・談話において散見する。

出現位置の点では、文章・談話全体の冒頭や、文章・談話を構成する段落の冒頭に位置する場合と、それ以外の場合とがある。

(23)~(28)は文章・談話冒頭の例、(29)は段落冒頭の例である。

(23) 「「オスカー監督賞を占う鍵!? DGA賞に注目!」50年以上の歴史のうち、オスカー監督賞との結果が食い違ったことはほとんどないDGA(全米監督組合)賞。先日発表された今年度のノミネは、マーティン・スコセッシ、クリント・イーストウッド、(…)。
受賞発表は1月29日。(『びあ』)

(24) 戦後六十年にわたって、ハイデガーをはじめとする西欧の哲学や思想に向きあってき

名詞修飾表現の用いられ方について

- た、哲学者木田元。本書は、著者が培ってきた思想のエッセンスをわかりやすく開陳した、ユーモアと機知に富んだ一冊である。（木田元『新人生論ノート』表紙見返しの文章）
- (25) 私たちの生活を支える先端技術の基本となる量子力学。この考えを、成り立ちにふれながら、豊富な図や写真で基礎の基礎から解説します。

（新刊書『量子力学とはなんだろう』紹介文）

- (26) [再掲]「球団マスコット 西へ東へ」 愛らしい格好で球場を和ませる各球団のマスコットキャラクター。今季、選手とともに敵地を訪れる機会が増えている。（以下、マスコットキャラクターの活躍ぶりが述べられる）（朝日新聞'05.8/4）
- (27) 「がんも肥満もビールで抑制？」 健康面ではあまりプラスのイメージがないビール。最近では、糖質やカロリーに加え、尿酸値を上げるプリン体などメタボリック症候群を気にしながら飲んでいる人もいるだろう。しかし、原料は大麦にハーブの仲間であるホップ、水と、体に悪いものは何もない。ならば一つぐらいは体にいい面もあるのでは？（…）（『AERA』No.38）
- (28) [連載「食材使いきりレシピ」きゅうりの回] 1袋3～5本入りで売っていることが多いきゅうり。使いきりやすいように「きゅうり3本」「きゅうり2本」「きゅうり1本」を使った料理をそれぞれ紹介します。（『栄養と料理』2004年7月号）
- (29) [F県の公共工事の不正談合事件についての報道]

（…事件のあらましの説明…）／ 建設業界で繰り返されてきた談合。その不正のしくみは一。（以下、その説明）／ 道義的責任を理由に、辞職したS知事。弟が県政に関与することは絶対に許さなかったと言及してきました。（…）（NHKTV ニュース番組'06.9.）

これらの表現で主名詞となっているのは、それぞれの文章・談話や段落が扱う中心話題である事物であり、それに修飾節が加えられている。

ところで、名詞修飾表現によって述べられる内容は、主名詞を主語とする「主語－述語」という形の文で述べることも可能である。

(23') DGA（全米監督組合）賞は、50年以上の歴史のうち、オスカー監督賞との結果が食い違ったことはほとんどない。先日発表された今年度のノミネは、…

「主語－述語」という形の文と比較すると、「修飾節＋名詞。」という表現には次のような特徴がある。まず、(20)①に挙げたように、主名詞に、すなわち文章・談話の中心話題たる事物に、より注目を集めやすい。また、(20)③に挙げたように、修飾節が主名詞に先行することから、文章・談話の中心話題たる事物の導入の上での利点が生じる。(23)～(25)のように、中心話題たる事物が、聞き手(読み手)にあまり知られていないことが予想されるものの場合、修飾節によってその事物の属性を述べて聞き手に背景的な知識を与えたり、聞き手に知られているであろう他の事物と関連付けたりすることが、中心話題たる事物の、文章・談話への導入を円滑にすることに役立つ。(26)の「各球団のマスコットキャラクター」、(27)の「ビール」、(28)の「きゅうり」などは、事物自体はよく知られているものであるが、当該の文章で展開したい内容(マスコットキャラクターの活躍ぶり、ビールの健康効果、本数に応じたきゅうりの調理法)に関

高 橋 美奈子

連した側面を修飾節として付し、文章・談話の展開に役立てている。

次は、テキスト中盤や終盤近くに、中心話題たる事物を主名詞とする「修飾節＋主名詞。」が用いられている例である。

- (30) [二谷友里恵著『楯』の書評] (略) 内容以上に文章というか表現が、この本はすごいのだ。／(略)／と、こんなふうには敵をジッと見すえた粘着質な表現が『楯』には満載なのである。〈私は一応、転んだりした時はただでは起きないように心掛けている〉とも書く彼女。実業家にしておくのはもったいない。作家に転身したらどうか。まだ書くことがあれば、だが。 (斎藤美奈子『誤読日記』)

- (31) [手軽に糠漬けが作れる器具を取り上げた報道。それを田中さんという主婦が使っている様子が映像とナレーションで描かれる] (略) 田中さん「手に糠の匂いがつかないのが助かります」。毎日糠漬けを作れるようになった田中さん。家族や友人にも好評です。
(NHKTV朝のニュース〈街で見つけたトレンド情報〉'06.7/13)

これらの場合、修飾節は、ここに至るまでの文章・談話の内容を反映した、中心話題についてのまとめた、総括的な内容となっている。

4. 2 前提の設定

文章・談話の冒頭、あるいはその中の段落の冒頭に位置するが、先述の「話題の提示」とは異なり、提示されるのが文章・談話やその段落の中心話題ではない「修飾節＋名詞。」という表現がある。

- (32) [「ほっと館」の紹介記事] 街の面影にそこはかとなく昭和の匂いを残す東京都江戸川区の住宅地。その風景に溶け込むようにして建つ鉄骨耐火3階建ての瀟洒な建物が高齢者共同住宅「ほっと館」だ。／(以下、「ほっと館」の説明) (『croissant』8/25)
- (33) 生物が様々な変化を遂げたガラパゴス諸島。ダーウィンフィンチと同様、目覚しい進化を遂げた動物がいます。イグアナです。 (以下、イグアナについて説明)
(NHKTV「ダーウィンが来た 生き物新伝説」'06.9/24)
- (34) 「喫茶店クロニクル」[ある喫茶店の紹介記事] 日差しが強くなるにつれて、忙しくなる。大阪商工会議所にほど近いオフィス街。名物のアイスクリームを、ビジネスマンやOLが、同僚たちのために買い求めていく。適度な甘さが心地よい。(…) 作り置きはしない。早朝から店の奥で仕込む。／生卵が2パック届いた。使う文だけ、こまめに注文する。(以下、この喫茶店についての説明) (『大阪人』59)
- (35) [「長塚圭史」に関する記事] '04年を総まとめする“〇〇アワード”なるものが、ここかしこで発表されている1月。もしも演劇界で、昨年もっとも“はたらくおとこ”だったで賞なんてものがあれば、今年、その動向が一番気になる男、阿佐ヶ谷スパイダース主宰・長塚圭史に贈りたい。… (『ぴあ』)
- (36) [小説のあらすじ紹介] 人間が死に絶え、北極と南極に位置する二つのコンピュータが世界を治めている遠未来。北極の《フロスト》は、出土品から人間に興味を持ち始め

名詞修飾表現の用いられ方について

る。彼は遺された本を読み、移動手段や各種センサーを獲得して人類最後の都市を探索し、(…)
(瀬名秀明『ロボット・オペラ』)

- (37) 「異文化とつきあう」 異文化を持つ人と、出会わない日はないこのごろ。かつて、日本から最も遠い存在だったイスラム世界の調査研究を続けてきた片倉もとこ・国際日本文化研究センター所長は今、日本に視線を向ける。(以下、片倉氏の談)

(朝日新聞'05.8/12朝刊)

これらの「修飾節+主名詞。」という表現は、文章・談話あるいは段落の中心話題たる事物を導入したり、話を展開させていく上での前提として、必要な事柄を設定するのに用いられている。必要な事柄というのは、場所や場面、時などである。(32)～(34)は場所を、(35)～(37)は時を設定している例である。

4. 3 事物の状態の説明

坪本(1992)(1997)は、実況放送やシナリオト書き中に、また報道写真のキャプションとして現れる「XP-NP連鎖」と呼ぶところの表現について、XP(修飾節)はNP(名詞)の、眼前の一時的状態を表し、XP-NP全体は一つの事態を表す、と述べている。本稿も、「修飾節+主名詞。」の用いられ方として、実況中継の語り、シナリオのト書き、写真や図版のキャプションといった種類の文章・談話において、事物の、その時点での状態を述べるものを認める。例えば次のようなものである。

- (38) [TVドラマシナリオ] 書院で刺身を肴に酒を飲んでいる公民。酌をしているのは清之輔である。／(以下、両者の会話)
(井上ひさし『國語元年』)

- (39) 広い部屋の左右に居流れている袈裟で威儀を正した老職と陪席の諸奉行達。／中央の末席で小平太が挨拶している。
(「シナリオどら平太」『黒澤明と木下恵介』)

- (40) [野球試合の実況中継でのアナウンサーの語り] 7対6、1点差を追いかけている長崎の西方高校。
(NHKラジオ'06.8/13)

- (41) [同上] 追加点のチャンスが広がっています皇學館。
(NHKラジオ'05.8/7)

- (42) [映画の1シーンの写真に添えられた説明] 酔っ払ってネオンと車の洪水の中を傍若無人に歩き回る勘治。
(『Mook21 黒澤明』)

- (43) [同上] 飛び込んだ池に咲いた蓮の花を見て何かを悟る三四郎。
(『Mook21 黒澤明』)

- (44) [空港で客を誘導して走る地上職員の写真のキャプション] 最終案内、搭乗口まで乗客と一緒に走りながら無線で報告する地上職員。定時運航のため欠かせない役割だ
(朝日新聞 '05.8/3)

(42)～(44)は写真に添えられたものであるが、新聞・雑誌などの写真や図版に添えられたキャプションには、句点を伴わない「修飾節+主名詞」という表現も多く用いられている。これらも含めると、人や物の、その時点(写真に写された時点)における状態を述べる「修飾節+主名詞(。)」という表現は、相当な数に上る。

高 橋 美奈子

- (45) [宇宙飛行士がラーメンを食べている写真のキャプション] 宇宙でラーメンを食べる
野口聡一さん (朝日新聞 '05.8/6)

- (46) 10日、ヒースロー空港で航空便の相次ぐキャンセルを告げる掲示板を見る乗客
(日本経済新聞 '06.8/11朝刊)

- (47) [「ブドウ被害 1 億2000万円に」 傷んだブドウの写真のキャプション] 長雨で表皮が
破れたブドウ (柏原市) (読売新聞 '06.8/11朝刊)

実況中継の語り、シナリオのト書き、そして写真や図版のキャプションといった種類のテキストで「修飾節＋主名詞(。)」という表現が用いられる理由は、(20)②に述べた、この表現の簡潔さに求められると考える。写真や図版のキャプションとしては、「主語－述語」という形をとる文が用いられることもあるが、その割合は「修飾節＋主名詞(。)」よりもかなり低い⁸⁾。

4. 4 出来事^{しゅつたい}の出来

シナリオのト書きに用いられる「修飾節＋主名詞。」という表現には、前述の、事物のその時点での状態を表すもののほかに、劇中で物語が展開する中で、登場人物が何らかの動作を行うことを表すものがある。

- (48) [演劇シナリオ] …と、すぐ、ドア⑤が開き、智恵子が出てきて、スイッチを入れる。
お互いに発見し合い、おたがいにびっくりし合う岡と国枝。
(井上ひさし『箱根強羅ホテル』)

- (49) [TVドラマシナリオ]
修一郎：(清之輔に同情しながら)「ばかな部下を持つとまったく埒がきません」……。
一同、シーン。唇を噛んで考え込む虎三郎。台所の板の間で太吉がワーンと泣き出す。
(國語元年)

シナリオト書きのほか、物語のあらすじを述べる文章や、話し手が見聞や体験を語る文章・談話の中では、話の登場人物を主名詞とし、その動作を修飾節で述べる「修飾節＋主名詞。」という表現が散見する。

- (50) (再掲) [映画のあらすじ紹介] そんな店で、シャーリーの化けたルイーゼは、つい化けていることを忘れてケチャップを注文した。／ 露骨にイヤな顔をするウェイターと、いぶかしげに眉をひそめるお母さん。
(映画とたべもの)

- (51) [漫画のあらすじ紹介] BJの大学の先輩竹中外科医は、大の競馬好きで多額の借金に悩まされていた。BJも竹中に3千万円を貸していたが、突然脳溢血で竹中は死んでしまう。BJは女医である未亡人のもとを訪ね借金返済を迫るが、そのかわりに1ヶ月だけ手助けをすることを約束した。次第にBJの隠れた優しさに惹かれていく未亡人。そんなある日、パンチ氏症の患者がBJの手術を受けにやってくる。困難な手術であるため4千万円を要求するBJ。患者の妻は快諾し緊急手術となった。

(『ブラック・ジャック・ザ・カルテ2』)

- (52) お店の中で、子供さんに向かって、延々と叱り始めた母親がいました。しかし、子供

名詞修飾表現の用いられ方について

も言うことを聞かず、とうとう怒った母親はその子をビンタ！ますます激しく泣き出す子供。じろじろ見たり、迷惑そうな他のお客様…。見かねた主任が、「申し訳ありませんが、他のお客様もいらっしゃるの」とたしなめたところ、「ほっといて下さい！」と逆ギレ！…
(Yomiuri online「発言小町」)

主名詞が人物ではない例も見られる(例(54)は2つ目の下線部の表現)。

- (53) [小説のあらすじ紹介] 旅人は、砂糖でくるんだ胡桃を土産に買おうと小ぎれいな菓子屋に入る。菓子屋の女房の手からこぼれる一顆の胡桃。拾って折に詰めようとするのを旅人に難じられた女房が赤面して捨てようとした刹那、「勿体ないぞ」と、もの蔭から九官鳥のごとき主人の声。思いあまった女房に旅人は決然として言った。(…)

(『幻想文学』35)

- (54) [小説のあらすじ紹介] ヒロインの名はシム・ヘウォン。(略) 山で遭難しかけた彼女は見知らぬ青年に助けられた。彼の名はユ・ミヌ。イタリア留学から帰ったばかりの建築家だった。互いを意識するふたり。／ところが！ヘウォンには結婚を約束した恋人がいた。(略) 加えてさらに恋敵が現れる。(略) こうして始まる恋のW三角関係、というか四角関係。…
(誤読日記)

これらの「修飾節+主名詞。」は、修飾節と主名詞とを併せて、物語や話の展開につれて出来てきた出来事を述べるのに用いられている。

同じ内容を、「主語－述語」という文で表せば、次の下線部のようになる。

- (50') …ルイーゼは、つい化けていることを忘れてケチャップを注文した。／ウェイターは露骨にイヤな顔をし、お母さんはいぶかしげに眉をひそめた。

- (52') …とうとう怒った母親はその子をビンタ！子供はますます激しく泣き出しました。他のお客様はじろじろ見たり、迷惑そうな顔になりました／様子でした}…。見かねた主任が…

(20)②に述べたように、「修飾節+主名詞。」という表現は、「主語－述語」という文と比べて、同じ内容をより簡潔に表せる。(52)のような丁寧体の文章でも、修飾節中の述語は丁寧体で表さなくても済む。また、この表現の特徴として、修飾節中の述語の形態にテンスの意味が反映されないことも、表現の簡潔さにいくらか寄与する。主語と述語から成る文で表されるのであれば、述語の形態にテンスの意味が表され得るところが、上記の例では、修飾節中の述語はいずれも基本形となっている。

4. 5 補足的説明の挿入

「修飾節+主名詞。」という表現には、文章・談話に導入された事物について、補足的な説明を加えるために用いられるものがある。補足的な説明には、事物の属性を述べるもの、及び、事物の指示対象を示すものがある。

4. 5. 1 属性の説明

高 橋 美奈子

導入された事物について、その属性を述べて説明を補足している「修飾節＋主名詞。」の例を示す。説明される名詞句には波下線を施す。

- (55) 大阪市内の百貨店で開かれた古書市の美術雑誌や刷り物の山から面白い雑誌を掘り出した。大正時代に刊行されたその名も『道頓堀』という雑誌。入手したのは僅か一冊だが、表紙は大阪の夢二と謳われた宇崎純一の描く美人画。…

(橋爪節也『モダン道頓堀探検』)

- (56) 子供の頃、祖父母の家へ行くたび、同じ匂いがした。両親兄弟と暮らす家では決して嗅ぐことのない匂い。これがおじいちゃんとおばあちゃんの匂いなんだなと思った。生ぬるいような、きつくはないが、古くて少しかび臭い。好みではないが、なぜか安心する匂いだった。

(阿川佐和子『トゲトゲの気持』)

- (57) [書評]…著者はTAKUROこと久保琢郎、32歳。いわずと知れた人気ロックバンド、GLAYのリーダーである。1999年に幕張メッセで20万人ライブを成功させたとか、2002年には日中国交正常化30周年記念コンサートを北京で開催したとか、華々しい話題の多いGLAY。どうせこの本もちゃらちゃらした自慢話でしょ、と思ったら、大まちがい。

(誤読日記)

- (58) 結局、その英国人と称した男はデンマーク出身のフレデリックという名だとわかる。といえはなつかしいフェデリゴ！母と暮らしたなつかしい家に下宿していたあのデンマーク人画工フェデリゴではないか。ともにカンパニアの野を歩き、カタコンベの中で遭難したフェデリゴ。二人は再会を祝し、その後の閨歴を語る。

(森まゆみ『「即興詩人」のイタリア』)

- (55) (56)の名詞修飾表現は限定的修飾、(57) (58)の名詞修飾表現は非限定的修飾という違いはあるものの、前文で導入された事物について、その属性を述べて説明を補足するという点は共通している。

(55)～(58)は導入された事物を表す名詞と同じ名詞を主名詞とする表現であるが、次のように、説明すべき事物を言い換えた名詞に修飾節を付し、説明を補足しているものもある。

- (59) 翌日、アントニオは「カンピドリオ」の丘での始まりを待つ。ミケランジェロの設計した美しい広場。古代ローマの頃にはジュピターの神殿がおかれ、町の中心であった。いまも、ローマ市庁舎があり、その裏からは古代ローマの政治・経済の中心であったフォロ・ロマーノが一望できる。…

(「即興詩人」のイタリア)

- (60) 沖縄に渡った時はまず那覇に住処を見つけたけれど、その五年後には純然たる村に移った。いわゆるベッド・タウンとしての側面もほとんどない農業と漁業の土地。那覇からこの村への移住の心理的意義は東京から那覇への時よりも大きかった。

(池澤夏樹『異国の客』)

- (61) 顕微鏡をのぞいたら、「花」が咲いていた。肉眼では決して見るできない、カビのもう一つの姿。／大阪大工学部3回生の春、微生物の美しさに魅せられた。…

(「ひと」欄 朝日新聞 '06.8.13朝刊)

名詞修飾表現の用いられ方について

4. 5. 2 指示対象の提示

導入された事物について、その指示対象を提示して説明を補足している「修飾節＋主名詞。」の例を示す。説明される名詞句には波下線を施す。

(62) するといろんなお医者や治療家の人々にめぐりあい、これがまた楽しくて仕方ないのです。／足の指しか触らないのに、その場で私のトリ目を治してくれた人。心臓の動悸や外反母趾まで直してくれた歯医者。一回の治療で痛風を治してくれた治療家。睨むだけで頭痛を止めてくれた人……とても書ききれない。(『croissant』8/25)

(63) タレント本がおもしろいのは、内容よりも、その表現の仕方に、彼や彼女のひととなりがあらわれることだ。過去を赤裸々に語る人。自己陶醉にひたる人。エンターテインメントに徹する人。啓蒙に走る人。趣味やライフスタイルをあかす人。(誤読日記)

(64) 著者のトム・ダーディスは、アメリカの代表的文学者であると同時に名だたる酒豪であった四人について、その文学的才能がアルコールによっていかに損なわれたかの詳細な検討に入る。朝からウィスキーを片手に書いていたフォークナー。とめどない飲酒のため入退院を繰り返さざるをえなかったフィッツジェラルド。アルコール中毒と抑鬱症の挟み撃ちにあい猟銃で自殺することになるヘミングウェイ。そしてすでに十代でいっぱしの大酒呑みになっていたオニール……。

(沢木耕太郎『シネマと書店とスタジオ』)

次は疑問語「何」に当てはまる具体的な指示対象が示されている例である。

(65) 何が足りないのか。他者を他者と認め、その文化の価値を認めた上で自分たちの文化の価値を説明しようとする余裕、言い換えればトレランスの姿勢。

(池澤夏樹『異国の客』)

メイナード(2004)では②「焦点情報」、③「リスト」として挙げられていた例(16)(17)の表現は、本稿ではこの「補足的説明の挿入」に分類される。

これら「補足的説明の挿入」とした例は、例えば次の下線部のようにも表現し得る。

(55') 大阪市内の百貨店で開かれた古書市の美術雑誌や刷り物の山から面白い雑誌を掘り出した。それは、大正時代に刊行されたその名も『道頓堀』という雑誌であった。

(63') タレント本がおもしろいのは、内容よりも、その表現の仕方に、彼や彼女のひととなりがあらわれることだ。その例を挙げると、過去を赤裸々に語る人、自己陶醉にひたる人、エンターテインメントに徹する人、啓蒙に走る人、趣味やライフスタイルをあかす人などである。

(55')(63')に用いられているような、説明すべき名詞句を後の文で指し示す語や、名詞修飾表現の後に付く判定詞を現さない「修飾節＋主名詞。」の方が、表現が簡潔になる。

4. 6 事態の評価

文章・談話中に現れる「修飾節＋主名詞。」には、次のようなものもある。

(66) 死者の蘇りをテーマとしたSF短編。二百万年前に地球から離脱して彗星になった星

高 橋 美奈子

の洞窟の中で死んでいた原始人が、あまりにも完全な保存状態だったので生き返ってしまおうという荒唐無稽さ！（「幻想文学」編集部（編）『幻想文学1500ブックガイド』）

- (67) 「安達くみひも館」／ 一本一本の糸が綾をなす芸術的な工芸品の「くみひも」。王城の地として栄えた京都で広く愛され、受け継がれてきました。基本的な結び方だけで、約40種、柄の種類などを含めるとなんと3,000種以上にも及ぶ多彩さ！その優雅で繊細かつモダンな色使いから、最近では若い人たちにも人気が出てきています。（…）

（JR西日本制作のパンフレット「京都散策」）

- (68) 山の奥でめとった非の打ち所のない貞淑な妻が、山林を恋うて泣く。山奥の実家へ連れてゆくと、彼女は古い着物の下から一枚の虎の皮を見つけだす。〈なんだ。これがまだここにあったのか〉と言うと、虎の皮を着て虎の姿になり、いずこへとも知れず走って行ってしまった…。ずっとおとなしかった女が、虎の皮を見つけると大変身してしまう面白さ。（幻想文学1500ブックガイド）

- (69) 対するプレゼンスは（…）ベスト・パフォーマンスを見せてくれる。遠隔地から電話をかければいいのに、わざわざ標的の家まで赴き、玄関前の公衆電話から指示を送るという間抜けさ。（永田よしのり『カルト映画館』）

- (70) 鏡花はときおり凄みのある不条理怪談をものしているが、これもその一つ。菊と女と子供の因縁が、分かるようで分からないこの怖さ。（『幻想文学』35）

- (71) [書評] （…）最終章で迷子となった青年は「みんなして僕の過去を塗り替えようとしているようなんです」と語る。他人のうわさによって、全く観に覚えのないもう一人の「自分」が生まれるという不気味さ。この凝った構成の物語は、不穏な空気に満ちている。（日本経済新聞 '06.8/13朝刊）

これらの名詞修飾表現は、形容詞に由来する名詞を主名詞とする「内容補充による修飾⁹⁾」である。ある事態を修飾節に表し、その事態に対して話し手が下した評価や、感じた感情が、主名詞に表されている。

同じ内容を、「主語－述語」という形式の文に表すことも可能である。

- (66') 二百万年前に地球から離脱して彗星になった星の洞窟の中で死んでいた原始人が、あまりにも完全な保存状態だったので生き返ってしまうというのは荒唐無稽だ！

- (68') ずっとおとなしかった女が、虎の皮を見つけると大変身してしまうのは面白い。

それに関わらず、(66)～(71)のような、「修飾節＋主名詞。」という表現が用いられるのはなぜだろうか。

(66)と(66')、(68)と(68')を比較すると、「修飾節＋主名詞。」という表現の方が、それぞれの事態の「荒唐無稽さ」や「面白さ」がより強調されているような印象を受ける。考えられるのが、これらの「修飾節＋主名詞。」という表現と、感嘆文との関連である。感嘆文の中には、形容詞に由来する名詞を文末に置くという形式を取る文がある。

安達（2002）は、名詞で文を終止する感嘆文を3つに分類している¹⁰⁾が、その一つに“「～の…[形容詞－さ]」型感嘆文」と呼ばれるタイプのものがある。例えば次のようなものである。

名詞修飾表現の用いられ方について

(72) このメロディーの美しさ！

話し手の感動を呼び起こしたもの（(72)では「このメロディー」）が提示され、それに対して下した評価が名詞の形で文末に置かれるこのような感嘆文は、(66)～(71)のような「修飾節＋主名詞。」の表現、すなわち、ある事態が提示され、それに対する話し手の評価が名詞の形で表され文末に置かれる表現と、形の上での共通性を感じさせる。

“「～の…[形容詞ーさ]」型感嘆文”が「感嘆の気持ちを引き起こす誘因が発話現場に存在する」（安達2002 p.112）という性質を持つとされるのに対し、(66)～(71)の表現にはその性質はない、という相違もあり、(66)～(71)を感嘆文とは言い難い。しかし、感嘆文と同様の形式で表現することによって、取り上げる事態とそれに対する評価を、より強く印象深く伝える効果があるのではないかと考える。

5. まとめ

以上、「修飾節＋主名詞。」という表現の、文章・談話における用法について記述してきた。改めてその特徴をまとめておく。

(20)に示したように、この表現を用いることには、同じ内容を他の形式を用いて表すのに比べて、次のような利点がある。

- (20) ①名詞修飾表現に注目を集めやすい。
- ②表現が簡潔になる。
- ③修飾節の内容を先に示すことができる。

(20)①の利点を生かしているのが、「話題の提示」や「事態の評価」の用法である。

(20)②の「表現の簡潔さ」は、この「修飾節＋名詞。」という表現が、シナリオト書きやあらすじ説明の文において、また写真や図版のキャプションとして「事物の状態の説明」や「出来事の出来」を表すのに用いられること、「補足的説明の挿入」に用いられることに生かされている。

(20)③は「話題の提示」に生かされている。

用 法	文章・談話のジャンル	どのような利点を生かしているか
話 題 の 提 示	雑誌や新聞の記事、新製品や新刊書の紹介の文章、またテレビやラジオの報道などの、何らかの事物を取り上げそれについて読み手に説明することを目的とする文章・談話	(20)①、③
前 提 の 設 定	特に問わない	②
事物の状態の説明	シナリオト書き、実況中継、写真キャプション	②
出来事の出来	シナリオト書き、あらすじ説明の文章、話し手の見聞や体験を語る文章・談話	②
補足的説明の挿入	特に問わない	②
事 態 の 評 価	特に問わない	①

高 橋 美奈子

注

- 1) 名詞修飾表現の成り立ちについての筆者の見解は、高橋(2006)に記した。
- 2) 例文中では問題とする名詞修飾表現に下線を施して示す。例が複数の段落にわたる場合は、段落の切り替わりを「／」で表す。実例については各例の末尾に出典を記す。
- 3) (5)では、名詞修飾表現は接続詞を伴い接続節を形成するとともに、主節の述語の格成分にもなっている。
- 4) 3) については坪本(1992)(1997)、井島(2002)、4) については益岡(1995)、井島(2002)などで取り上げられている。
- 5) 以下、例文番号は私に改めた。また、下線は筆者による。
- 6) X Pとは、名詞が受ける修飾節を指している。
- 7) 以下、メイナード(2004)よりまとめた。例文はメイナード(2004)より、必要な箇所を引用した。下線は筆者による(原文では、文末の名詞にのみ下線が施されている)。
- 8) 因みに、新聞4紙(朝日、毎日、読売、日経)の、2006年8月12日夕刊及び8月13日朝刊に掲載された写真のキャプション合計124例のうち、「主語－述語」という形式の文は24例、「修飾節＋主名詞(。)」は100例であった。
写真キャプションとして用いられた「主語－述語」という文としては、例えば次のようなものがある。
(7) 10日、英国発の旅客機を狙ったテロ計画が摘発された影響で、ヒースロー空港では出発客による長蛇の列が出来た (読売新聞 '06.8/11)
- 9) 主名詞が一定の内容を持つような名詞であり、修飾節が主名詞の指すものの内容を表している名詞修飾表現を、高橋(2006)では「内容補充による修飾」と呼んでいる。
- 10) 次の3タイプが示されている(安達2002 p.109)。
 - 1) 「…属性[実質名詞]」型感嘆文 (例 すてきな絵！)
 - 2) 「～の…[形容詞－さ]」型感嘆文 (例 作品IIIの無茶苦茶な速さ！)
 - 3) 「～の…属性[こと]」型感嘆文 (例 この主題のきれいなこと！)

参考文献

- 安達太郎(2002)「現代日本語の感嘆文をめぐって」『広島女子大学国際文化学部紀要』10 県立広島女子大学国際文化学部
- 井島正博(2002)「主語のない名詞述語文」『日本語学』21-12 明治書院
- 北原保雄(1981)「日本語の文法」『日本語の世界 第6巻』中央公論社
- 高橋美奈子(2006)「節による名詞修飾表現の分類の一試案」益岡隆志・野田尚史・森山卓郎編『日本語文法の新地平 3 複文・談話編』くろしお出版
- 坪本篤朗(1992)「現象(描写)文と提示文」文化言語学編集委員会編『文化言語学－その提言と建設－』三省堂

名詞修飾表現の用いられ方について

- (1997) 「文のタイプと『ト書』連鎖」『静岡大学人文学部社会科学科言語文化学科研究報告人文論集』48-1
- 中村 明 (1991) 『日本語レトリックの体系』岩波書店
- 益岡隆志 (1995) 「連体節の表現と主名詞の主題性」益岡隆志・野田尚史・沼田善子編『日本語の主題と取り立て』くろしお出版
- 南不二男 (1993) 『現代日本語文法の輪郭』大修館書店
- 泉子・K・メイナード (2000) 『情意の言語学—「場交渉論」と日本語表現のパトス—』くろしお出版
- (2004) 『談話言語学』くろしお出版